

「学び合い 高め合い 認め合い 夢と希望を育む小鹿野小学校」

学校だより

学校教育目標 ○仲良く力を合わせる子 ○明るく元気な子 ○進んで学習する子
小鹿野町立小鹿野小学校 第10号 平成30年1月9日発行

明けましておめでとうございます

校長 矢 蔦 泰

保護者、地域の皆様におかれましては、健やかに平成30年の新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。昨年に引き続き本年も「学び合い 高め合い 認め合い 夢と希望を育む 小鹿野小学校」の実現に向けて全教職員一丸となって取り組んで参ります。

皆様の一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

親としてのつとめとは？ ～子どもに寄せる思い～

今年度当初、「旬」という言葉を取り上げて学校だよりの言葉を掲載させていただいております。

私事になって恐縮ですが、私には3人の子どもがいます。現在は3人の子ども全てが家を出て、それぞれ生活をしています。一番下の息子は成人には達しましたが学生の身分で、まだまだ物心両面の支援を行わなくてはなりません。文字通り、まだ保護されている身分です。

上の2人の娘と息子は、おかげさまで就職し、お金をいただき生活を成り立たせています。

子どもが小さい時の子育てについては、父親と母親での役割分担はありましたが、様々な段階によって親子一緒に行っていくのが私の子育ての基本でした。自転車に乗る頃には、自転車の後ろを押さえての練習、運動に親しむ頃には一緒にキャッチボール、年末の大掃除等、ごくごく当たり前で皆様と同様のことだと思えます。その時は大変に思うこともありましたが、一緒に行うため姿が見え安心でき、今となっては楽しみをも感じながら子育てができたように思います。また、学校で無事に学ばせ、仕事に就き、自分の力で生活ができるまで何とか育てていくのが親のつとめではないかとも思っていました。確かに、現在、上の2人の子どもについてはあまり経済的な支援は行わなくなりました。これで親としてのつとめも終わりかと思いきや、普段姿が見えない分、気がかりなことがつきません。12月3日の故郷の大きなお祭りにも仕事なのか顔を見せることもできず、大変なのかと考えてしまいます。

まずは、健康。元気なのか、職場では他の人たちと上手につきあえているのか、経済的には不十分でも充実した気持ちで生活できているのか、将来については大丈夫だろうかなど…。心配をしても仕方の無いことだとは思いますが、結局は「親としての子どもへの思い」は、いつまでたっても終わりが無いのだと思います。今でも私が子どものことが気がかりになるのは、きっと、その時々での私の子育てが不十分の部分があったせいもあると思います。子どもの幸せを願う親という立場の「卒業」はきっとないのだと今更ながら実感しています。せめて秩父に帰ってきた時はできるだけ温かく迎えよう、帰る時には一言励ましを、というのが今、親としてできることかなと思っています。私は父親を早く亡くしましたが、80歳を超える母親がいます。50歳の半ばを越えた私に対して私が自分の子どもに抱く思いと同じように、いつまでも親として気をもんでいるのだと最近では想像します。そう感じるようになると、最近では会った時の自分の接し方も変わってきたように思います。

保護者の皆様の今の「子育ての旬」はどのようなことですか。

忙しい中、時間を見つけての親子の日常の会話を大事にしていくことでしょうか。休日にスポーツ等を通して一緒に時間を共有していくことでしょうか。子どもの不安や悩みはないか、手は離しても見守っていくことでしょうか。保護者の皆様は既に一生懸命子育てを行っておられる最中であると思います。

この新年を迎えたタイミングはお子様の今までの子育て、これからの子育てについて思いを寄せてみるよい機会だと思います。

今年度も残り3か月。新年を機会に、さらに保護者の皆様と学校が一緒になって「子育ての旬」を行っていただくと考えます。新年早々、まとまりのない文章を長々と書いてしまいました。

今年もよろしくお願いいたします。